

II-63 岩手県中小河川河口現地調査結果について

岩手大学工学部 学生員○伊東裕之 学生員 船越 訓

正 員 笹本 誠 正 員 堺 茂樹

正 員 平山健一

1. はじめに

岩手県内の河口の特性について、昨年度は海岸地形及び流域特性との関連を検討したが、その後現地調査及び関連機関からの情報収集を行い、河口変動の種類及び時間スケールとその他の特性との関係を詳しく調べたので以下に報告する。

2. 調査方法及び調査結果

岩手県内にある42の二級河川を対象に河口状況の観測及び河口先端部汀線の砂の採取を行うと共に、岩手県各土木事務所、市町村、関連漁協、地元の人に話を聞き、河口変動の概況を取りまとめた。

各河川の海岸地形の特性、河口変動の状況、被害例と対策、底質の特性を導流堤（防波堤、あるいは護岸など実質的に導流堤の役割をしている場合も含む）がある河川とない河川に分けて二つの表に示した。河口変動の種類及びその時間スケールを分類し、海岸地形、底質、流域の特性などの影響を検討した。

導流堤がある川

河川名	①海岸地形	開口角	②河口変動の種類	③河口変動時間的スケール	④被害例	⑤対策	底質中央粒径(mm)	比重 (g/cm ³)
久慈川	B	ESE 40	b	I	α	X	右 1.8 川沿い 6.2	2.6 2.58
安家川	A 石浜海岸		0	0	0	0		
明戸川	A	SE 30	b	I	α	X	右 0.45 左 0.3	2.62 2.63
松前川	A	ENE 40	b	I	α	X	左 1.0	2.62
小本川	A	ESE 50	a	I	α	X	右 1.8 左 1.8	2.64 2.62
							左表層 4.5	2.6
撰待川	A 港内	E 30	b	I	α	X	左 4.8	2.65
田代川	D		b	III	0	X	右 0.74	2.61
重茂川	A	NE 20	b	II	α	X	右 8.2	2.62
大沢川	E		b	III	α	X	中州 1.0	2.56
関口川	C		b	II	α	X	右 1.05	2.64
水海川	B (岬の背後)		0	0	0	0		
片岸川	B (岬の背後)		b	III	0	X	右 0.58	2.66
吉浜川	B	E 5	b	I	α	X	左 0.42	2.57
泊川	C (岬の背後)		b	III	0	X	右 1.7	2.63
甫嶺川	C	ESE 4	b	II	0	X	右 12.0	2.73
合足川	B		0	0	0	0	右 9.4 左 0.74	2.64 2.59
盛川	C		0	0	0	0		
気仙川	B	SSE 10	b	I	α、β	X	右 1.1	2.64

合足川：常時伏流している

①河口付近の海岸地形	②河口変動の種類	③河口変動時間的スケール	④被害例	⑤対策
A 外海	a 完全閉塞	I 時化の度	α 鮭の遡上問題	X 人工的に開閉
B 開放型の湾奥	b 河口幅減少、河床高上昇	II 年に数回	β 過去に洪水、排水が悪い	Y 導流堤建設予定
C 閉鎖型の湾奥	c 移動	III 数年に一度	0 なし	0 何もしない
D 開放型の湾の側面	0 変化なし	0 変化なし		
E 閉鎖型の湾の側面				

○導流堤がある川

(1)完全閉塞する河川

- ・河口が外海に面しており激浪地域(小本川)

(2)河口幅減少、河床上昇する河川

I. 頻度が時化の度の河川

- ・河口が外海に面している或いは、開放型の湾奥である。(久慈川、明戸川、撰待川、吉浜川、

気仙川)

II. 頻度が年に数回

- ・河口の位置が閉鎖型の湾奥。(関口川、甫嶺川)
- ・河口の位置が外海に面しているが、河口部の砂の粒径が大きい。(重茂川)

Ⅲ. 頻度が数年に一度

- ・湾の側面に位置していて両岸の河口整備をしている。(田代川、大沢川)
- ・岬の背後に河口がある。(片岸川、泊川)

(3)閉塞しない河川

- ・石浜海岸は閉塞しにくい。(安家川)
- ・河口が岬の背後に位置しており、付近の砂浜が少ない。(水海川)
- ・河口の位置が閉鎖型の湾奥であるが比較的大きい河川で河口を整備している。(盛川)

導流堤がない河川

河川名	①海岸地形	開口角	②河口変動の種類	③河口変動時間的スケール	④被害例	⑤対策	底質中央粒径(mm)	比重(g/cm ³)
川尻川	A	NNE100	b c	I	α 、 β	X	右0.82 左2.73	2.64 2.73
有家川	A 石浜海岸		0	0	0	0		
高家川	A 石浜海岸		0	0	0	0		
宇部川	A	ESE 40	c	I	α	X	右2.5 左2.7	2.58 2.61
米田川	A	E 5	c	I	0	0	右1.8 左1.8	2.60 2.61
普代川	A	NE 80	b	I	α 、 β	X	砂州0.78 左0.58	2.56 2.60
平井賀川	A 港内	E 20						
閉伊川	D		b	Ⅲ	0	X		
八木沢川	D 港内		0	0	0	0		
津軽石川	B	NNE 9	b	Ⅱ	0	X	右0.62	2.57
織笠川	C		b	Ⅱ	0	X	左0.8	2.56
大槌川	B		b	Ⅱ	α	X		
鶴住居川	B	ENE 2	b	Ⅱ	α	Y	右0.5	2.63
甲子川	D		b	Ⅲ	0	X		
熊野川	B	E 6	b	I	α	X	右0.42	2.62
浦浜川	C	SE 4	b	I	α	XY	右1.0	2.65
綾里川	B 港内		0	0	0	0		
後の入川	E		b	Ⅲ	0	X		
須崎川	E		0	0	0	0		
浜田川	B	SSE 5	c	I	0	0	右0.28 左0.37	2.59 2.64
長部川	D 港内		0	0	0	0		

平井賀川：工事中のため不明

○導流堤がない河川

(1)河口幅減少、河床高上昇する河川

I. 頻度が時化の度の河川

- ・河口の位置が外海型或いは、開放型の湾奥。
(川尻川、普代川、熊野川)
- ・閉鎖型の湾奥に河口があるが、砂浜海岸であり流域面積が小さい。(浦浜川)

Ⅱ. 頻度が年に数回

- ・河口の位置が閉鎖型である。(織笠川)
- ・河口の位置が開放型の湾の側面。(大槌川)
- ・河口の位置が開放型であるが、流域面積が大きい。(津軽石川、鶴住居川)

Ⅲ. 頻度が数年に一回

- ・河口の位置が開放型の湾の側面にあり比較的大きい河川で河口の両岸に護岸がある。

(閉伊川、甲子川)

- ・河口の位置が閉鎖型の湾の側面にあり河口の両岸を護岸している。(後の入川)

(4)河口が移動する川

- ・時化の度に河口が変動する河川と同じ状況であるが、移動する河川の方が砂浜が長い。

(宇部川、米田川、浜田川)

(5)河口閉塞しない河川

- ・石浜海岸である。(有家川、高家川)
- ・河口が港内にある。(八木沢川、綾里川、長部川)
- ・河口の位置が閉鎖型の側面にあり両岸の河口を護岸している。これは、後の入川と同じ状況であるがこちらのほうが、流域面積が広い。(須崎川)

最後に、本研究を行うにあたり御協力下さった岩手県土木部河川課、水産部漁港課、漁業振興課、各土木事務所及び漁協の方々に感謝の意を表します。